

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	フェリシアこども短期大学
設置者名	学校法人 明泉学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	国際こども教育学科		75			75	7	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>本学情報公開ホームページにて以下のものを公表                  II 修学上の情報等 実務経験のある教員等による授業科目一覧  <a href="https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2022_List_of_Courses.pdf">https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2022_List_of_Courses.pdf</a></p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	学校法人 明泉学園
設置者名	理事長 百瀬義貴

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人 明泉学園のホームページにて掲示している。  
<https://www.meisen.ac.jp/pdf/yakuin.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	有限設計 johō 設計 代表取締役	2018年11月21日～ 2022年11月20日	市場調査研究活動 リスクマネジメント 営繕管理チェック
非常勤	伊藤機電株式会社 代表取締役	2022年4月1日～ 2022年11月20日	市場調査研究活動 リスクマネジメント 内部監査チェック
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	フェリシアこども短期大学
設置者名	学校法人 明泉学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>フェリシアこども短期大学学則に基づく「授業計画及び成績評価基準に関するガイドライン」を作成し、シラバス作成時の必要事項(授業方法とその内容、到達目標、成績評価の方法と基準等)を規定している。さらに、シラバス作成にあたっては“シラバスハンドブック”(年度ごと)を作成し、下記の項目について必須記載項目として全教員に徹底している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 講義概要</li> <li>(2) 実務経験の有無と内容およびその教育について</li> <li>(3) 授業計画および学習形態</li> <li>(4) 教育目標との関連</li> <li>(5) 到達目標</li> <li>(6) 評価方法および評価基準</li> <li>(7) 準備学習(予習・復習等)</li> <li>(8) 教科書</li> <li>(9) 参考書・参考資料・参考 URL など</li> <li>(10) オフィスアワー</li> </ol> <p>各教員が作成したシラバスは、シラバスチェック(執筆者以外の教員がチェックをし、ハンドブックに明記された記載要件を満たさなければ修正)を行った後に、学生に公表している。</p> <p>授業計画は前年度の秋学期より作成を開始し、学生には当該年度が始まる前の3月に学内のポータルサイトにて公表するとともに、当該年度の開始時点で本学情報公開ホームページにも情報公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学情報公開ホームページにて以下のものを公表</p> <p>Ⅱ 修学上の情報等 シラバス</p> <p><a href="https://www.felicia.ac.jp/pdf/2022_Syllabus.pdf">https://www.felicia.ac.jp/pdf/2022_Syllabus.pdf</a></p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

- (1) 成績評価の基本とガイドラインを以下の通り実施している。
- ①成績評価は、学生が何をどの程度できるようになったかを評価することを基本とする。
  - ②成績の評価基準は学則第22条（成績評価基準）及びGPA制度に関する規程第2条（評価等）に基づき評価している。
  - ③教務委員会は各期の成績評価結果を、GPAによる科目別成績分布及び学年別GPA分布を学内のポータルサイトに公表している。この資料を、短大企画本部、教務委員会は各期の評価結果の妥当性の検証（成績評価基準の認識の統一）を行っている。
- (2) 成績評価（単位認定）のための具体的指標は以下のとおりである。
- ①多様な評価項目を通じて厳格かつ適正な評価となるよう心掛ける。  
試験やレポートの内容、学習への意欲など、どのように学修成果として評価し単位認定しているのか、あらかじめ設定して明らかにしている。
  - ②評価方法として、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価や学修ポートフォリオを活用している。ルーブリックを用いたパフォーマンス評価は、評価指標（到達目標）と評価指標に即した評価基準のマトリクスを学生に示し、達成基準を明確にしている。  
その基準に従って、レポート、プレゼンテーション、グループ学習などの評価に活用している。  
これらを総合して、個々の授業の総括的評価（成績評価）や形成的評価を行っている。
  - ③シラバスには“評価方法および評価基準”の欄に評価内容の配分割合とその内容の具体的な基準を記載している。

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学、GPA規程では以下の指標により設定・公表し運用している。</p> <p>第2条 学生が履修した授業科目の成績の評語を S、A、B、C、D で示す。及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値を4、3、2、1、0で示す。以下「GP」という。）は、次のとおりとする。</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S・・・(到達目標を超えたレベルを達成している)・・・</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>A・・・(到達目標を達成している)・・・</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>B・・・(到達目標に概ね到達している)・・・</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>C・・・(到達目標に到達するには努力を要する)・・・</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>D・・・(到達目標に到達していない)・・・</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>第4条 GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。</p> $GPA = (GP \times \text{単位数}) \text{の総和} \div \text{履修登録単位数}$ <p>第5条 対象外の科目は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 履修規程第8条第3項（資格・検定試験による単位認定）により判定する授業科目。</li> <li>(2) 学生が他大学等で履修した授業科目。</li> <li>(3) その他、学長が定める授業科目</li> </ol> <p>第7条 成績の公平性の確保と学生等への説明責任を果たす等の目的で、科目ごとに「S・A・B・C・D・E・F」の分布状況を、教員及び学生向けに公表する。</p> <p>なお、GPA分布図は自己点検評価報告書に示している。GPAの数値により学生の学修指導及び卒業判定に役立てることを目的としており、学業成績優秀者の表彰や学内における各種奨学生の選考、また、一定ポイントに満たない学生に対する成績注意等を行っている。</p>		評語	GP	S・・・(到達目標を超えたレベルを達成している)・・・	4	A・・・(到達目標を達成している)・・・	3	B・・・(到達目標に概ね到達している)・・・	2	C・・・(到達目標に到達するには努力を要する)・・・	1	D・・・(到達目標に到達していない)・・・	0
評語	GP												
S・・・(到達目標を超えたレベルを達成している)・・・	4												
A・・・(到達目標を達成している)・・・	3												
B・・・(到達目標に概ね到達している)・・・	2												
C・・・(到達目標に到達するには努力を要する)・・・	1												
D・・・(到達目標に到達していない)・・・	0												
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>本学情報公開ホームページにて以下のものを公表している GPA 規程  <a href="https://www.felicia.ac.jp/wp-content/uploads/2020/08/ca8645f15cbba57cd6b60e56c0cc0e6c.pdf">https://www.felicia.ac.jp/wp-content/uploads/2020/08/ca8645f15cbba57cd6b60e56c0cc0e6c.pdf</a></p>												

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学は、幼児の心身の発達を真に理解し、保育技術を体得した教養ある保育者を養成する専門の女子短期大学として発足した。現在は“グローバル市民”を育むことのできる乳幼児教育者の養成に力を入れ、以下の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、卒業を認定し学位を授与している。</p> <p>●学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【知識・理解】 保育者として必要な教養、子どもや保育の内容・方法を理解し、基礎的な専門知識を身につけることができる。</li> <li>2. 【思考・判断】 学習した知識・技術を総合して、筋道をつけて考え、保育展開や家庭支援、課題解決に向けて適切に判断することができる。</li> <li>3. 【技能・表現】 学習した知識・技術を活用して、保育展開や家庭支援、課題解決に必要な実践・表現ができる。</li> <li>4. 【関心・意欲】 子どもや子育てに関する関心を高め、自らを省察し、主体的・意欲的に学びを深めることができる。</li> <li>5. 【人間性・社会性】 社会の一員としての自覚を持ち、他者および多様性を尊重し、協力・協働を図るとともに、深い愛情と共感性をもって他者に接したり、社会に貢献したりできる。</li> </ol> <p>また、卒業要件については、学則および履修規程に必要単位数を定め、GPA規程に入学時からの累計ポイントの指標（努力義務）を明示している。 卒業認定の手順は卒業判定会議、教授会を経て学長が認定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本学情報公開ホームページにて以下のものを公表している 教育理念と学位授与の方針 <a href="https://www.felicia.ac.jp/about_us.html">https://www.felicia.ac.jp/about_us.html</a> 学則、履修規程、GPA 規程 <a href="https://www.felicia.ac.jp/public.html">https://www.felicia.ac.jp/public.html</a></li> <li>2. これらの情報が記載されている学生ハンドブック（冊子）は、学生及び教職員に配付し、かつ、オンライン（学生ポータルサイト）上でも閲覧できるようにしている。</li> </ol>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	フェリシアこども短期大学
設置者名	学校法人明泉学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学ホームページ(Ⅲ 財務情報)にて公表 ( <a href="https://www.felicia.ac.jp/public.htm">https://www.felicia.ac.jp/public.htm</a> )
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学情報公開ホームページ <a href="https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2022_Self-inspection_report.pdf">https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2022_Self-inspection_report.pdf</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 一般財団法人短期大学基準協会 平成28年度評価結果 <a href="http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-1_jigyoy6_kekka/h28/26_h28_tsurukawajoshi.pdf">http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-1_jigyoy6_kekka/h28/26_h28_tsurukawajoshi.pdf</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際こども教育学科
教育研究上の目的 <a href="https://www.felicia.ac.jp/about_us.html">https://www.felicia.ac.jp/about_us.html</a>
(概要) 多文化な乳幼児教育現場において、愛情をもって子どもの最善の利益を保障できる乳幼児教育者を養成するための教育及び研究を行う。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.felicia.ac.jp/about_us.html">https://www.felicia.ac.jp/about_us.html</a> )
(概要) 1. 【知識・理解】保育者として必要な教養、子どもや保育の内容・方法を理解し、基礎的な専門知識を身につけることができる。 2. 【思考・判断】学習した知識・技術を総合して、筋道をつけて考え、保育展開や家庭支援、課題解決に向けて適切に判断することができる。 3. 【技能・表現】学習した知識・技術を活用して、保育展開や家庭支援、課題解決に必要な実践・表現ができる。 4. 【関心・意欲】子どもや子育てに関する関心を高め、自らを省察し、主体的・意欲的に学びを深めることができる。 5. 【人間性・社会性】社会の一員としての自覚を持ち、他者および多様性を尊重し、協力・協働を図るとともに、深い愛情と共感性をもって他者に接したり、社会に貢献したりできる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.felicia.ac.jp/about_us.html">https://www.felicia.ac.jp/about_us.html</a> )
(概要) 本学は「国際こども教育学科」の単科の大学で、保育士・幼稚園教諭などの保育者養成を目的とし、本学の「建学の精神」である「愛の教育」に則り、次のことを意図して教育課程の編成と授業展開をしている。 本学の教育理念である「愛をもって幼児を育成する保育者の養成」の上に、保育・教育に必要な専門的知識と技術を修得するため、理論と実践の科目をバランス良く配置するとともに、保育者として実践的な行動力及び広い視野を身に付けることができるように以下の6つを柱として科目を設けている。 1. 【8つの領域】ディプロマ・ポリシーで掲げる人物像を育成するために8つの領域を設定し、多面的な人材育成を図る。①教育・保育の本質と目的に関する科目 ②人間の理解に関する科目 ③世界の教育・保育に関する科目 ④表現技術・基礎技能に関する科目 ⑤言語に関する科目 ⑥教育・保育の内容・方法に関する科目 ⑦実習・実践・研究に関する科目 ⑧教養に関する科目 2. 【教養科目】 国際理解や日本の文化、倫理など、人間として健康に豊かに生きていくための幅広い教養科目を設置する。特に、キャリア教育は2年間を通して行い、初年次教育から社会人基礎力の育成まで一貫したひとつの科目として編成する。 3. 【専門教育科目】乳幼児教育の原理から実践に必要な技能の修得まで、科目間の連携を図りながら、実践演習をひとつの集大成科目と位置づけ、重層的に科目を編成する。

4. 【言語に関する科目】 グローバル社会の中で活躍できる保育者の養成を目指し、正しい日本語と、実践的な英語コミュニケーション能力を修得するための科目を編成する。
5. 【資格・免許取得】 2年間で保育士資格と幼稚園教諭免許状が取得できるよう教育課程を編成し、事前・事後指導も含めて実習科目を編成する。
6. 【時間割編成】 乳幼児教育の専門職としての意識を高め、アクティブ・ラーニング実践的な力を養うため、演習科目のみならず講義科目もできる限り少人数で履修できるよう時間割を編成する。

子どもを取り巻く現代的諸問題に対する関心を高め、学習した知識・技術を総合して適切な保育・子育て支援の実践的展開や課題解決ができるように、主体的・意欲的に学びを深めるためのアクティブ・ラーニング形式の科目を多く配置している。  
 社会のグローバル化にともない、多文化に対応できる国際感覚豊かな保育者養成のために海外フィールドワークなど多角的な授業展開科目を配置している。

#### 入学者の受入れに関する方針

(公表方法：[https://www.felicia.ac.jp/about\\_us.html](https://www.felicia.ac.jp/about_us.html))

(概要)

本学は、建学の精神である「愛の教育」と保育者養成校としての社会的使命に基づき、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに掲げた教育を行っている。こうした教育を受けるための条件として、次に挙げた資質・能力や意欲を持った学生を受け入れる。

- ①【知識・理解】 高等学校までの学習を通して、入学後の学修に必要な基礎的な学力を有しているとともに、基本的な生活習慣が確立している人
- ②【思考・判断】 自ら課題を発見し、解決するために必要な力（思考力・判断力・表現力）の基礎を有している人
- ③【技能・表現】 自分の考えを適切に表現できる能力を持つ人
- ④【関心・意欲】 ・保育者になろうとする意志を持ち、子どもと積極的にかかわり理解しようとする人  
 ・日本だけでなく、海外の子どもや保育を取りまく社会の状況に関心を持っている人
- ⑤【人間性・社会性】  
 ・建学の精神である「愛の教育」を理解し、豊かな感性と深い愛情をもって子どもの健やかな成長を支援しようとする人  
 ・多様な人々と積極的にコミュニケーションをとり、協働して学ぶ態度がある人

#### ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学情報公開ホームページにて以下のものを公表

Ⅱ 修学上の情報等 教育研究に関する基本組織と教学運営体制

[https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2022\\_basic\\_organization.pdf](https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2022_basic_organization.pdf)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2人	－					2人
国際こども教育学科	－	4人	2人	4人	1人	人	11人
b.教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			29人				29人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：本学情報公開ホームページ <a href="https://www.felicia.ac.jp/about_us/teacher_introduction.html">https://www.felicia.ac.jp/about_us/teacher_introduction.html</a>					
c.FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
年間で開催する研修会は、学校法人全体で開催するもの1回、本務及び兼務の教職員対象は2回、そのほか、本務教職員むけのものが5回以上開催している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際こども教育学科	130人	127人	97.7%	260人	244人	93.8%	0人	0人
合計	130人	127人	97.7%	260人	244人	93.8%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際こども教育学科	117人 (100%)	16人 (13.7%)	83人 (70.9%)	18人 (15.4%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	117人 (100%)	16人 (13.7%)	83人 (70.9%)	18人 (15.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(主な進学先) フェリシアこども短期大学専攻科				
(主な就職先) 認定こども園フェリシア幼稚園、町田自然幼稚園、江東YMCA幼稚園、綾瀬中央幼稚園、大和あけぼの幼稚園、町田サレジオ幼稚園、高尾幼稚園、日大認定こども園、海老名幼稚園、有鹿幼稚園、座間孝道幼				

<p>稚園、梶ヶ谷幼稚園  鶴川フェリシア保育園、成瀬フェリシア保育園、高ヶ坂なかよし保育園、町田なかよし保育園、多摩文化保育園、ユニケ保育園、もんもん保育園、ベル・フラワー保育園、ひよこハウス豊田、たつのこはら保育園、日暮里きらきら保育園、駅前なかよし保育園、宮前空翠保育園、第二厚生館愛児園、なごみ保育園、いずみ保育園、保育所 Bambini、保育園おひさまのほっぺ、十六山保育園、小学館アカデミー神保町保育園、グリーンキッズ湘南ライフタウン、河田保育園、船堀中央保育園、ゆうゆうキッズ、勝瀬保育園、昭和郷第二保育園、まあむベイビーズ相模大野、西八王子わくわくランド、西有馬おひさま保育園、もみの木保育園長峰、池辺保育園、明愛保育園、めぐみ第一保育園、まんまる保育園、あすのき保育園  川崎授産学園、精舎児童学園、宝安寺社会事業部、中心会、ワーク中川、ウエルウエルネット、福田の里、子育て支援施設あつぴい赤坂、鶴川第4学童保育クラブ、東京都七生福祉園、村岡ホーム、西金沢地域ケアプラザ</p>
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
国際こども教育学科	129人 (100%)	113人 ( 87.6%)	4人 ( 3.1%)	12人 ( 9.3%)	0人 ( 0%)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)  フェリシアこども短期大学学則に基づく「授業計画及び成績評価基準に関するガイドライン」にシラバス作成の必要事項としての授業方法とその内容、到達目標、成績評価の方法や基準の基本的事項を規定している。さらに、シラバス作成にあたっては“シラバスハンドブック”（年度ごと）を作成し、下記の項目についてさらに具体的に要点を明確にして全教員に徹底している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 講義概要</li> <li>(2) 実務経験の有無と内容およびその教育について</li> <li>(3) 授業計画および学習形態</li> <li>(4) 教育目標との関連</li> <li>(5) 到達目標</li> <li>(6) 評価方法および評価基準</li> <li>(7) 準備学習（予習・復習等）</li> <li>(8) 教科書</li> <li>(9) 参考書・参考資料・参考 URL など</li> <li>(10) オフィスアワー</li> </ol> <p>授業計画は前年度の後期より作成を開始し、学生には当該年度が始まる前の3月に学内のポータルサイトにて公表するとともに、当該年度の開始時点で本学情報公開ホームページにも情報公開している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学は、幼児の心身の発達を真に理解し、保育技術を体得した教養ある家庭婦人、保育者を養成する専門の女子短期大学として発足した。現在は“グローバル市民”を育むことのできる乳幼児教育者の養成にも力を入れ、以下の教育理念に基づき、後述する学位授与の方針を身につけた者に卒業を認定し学位を授与している。</p> <p>●教育理念</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育・福祉の専門知識を活かして、社会でも家庭でも自分らしく生きることができ力を持った女性の育成</li> <li>2. 愛をもって幼児を育成する教育者の養成</li> </ol> <p>●学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【知識・理解】 保育者として必要な教養、子どもや保育の内容・方法を理解し、基礎的な専門知識を身につけることができる。</li> <li>2. 【思考・判断】 学習した知識・技術を総合して、筋道をつけて考え、保育展開や家庭支援、課題解決に向けて適切に判断することができる。</li> <li>3. 【技能・表現】 学習した知識・技術を活用して、保育展開や家庭支援、課題解決に必要な実践・表現ができる。</li> <li>4. 【関心・意欲】 子どもや子育てに関する関心を高め、自らを省察し、主体的・意欲的に学びを深めることができる。</li> <li>5. 【人間性・社会性】 社会の一員としての自覚を持ち、他者および多様性を尊重し、協力・協働を図るとともに、深い愛情と共感性をもって他者に接したり</li> </ol> <p style="text-align: center;">社会に貢献したりできる。</p> <p>また、卒業要件については学則、履修規程に必要単位数を定め、またG P A規程には、入学時からの累計ポイントの指標（努力義務）を明示している。 なお卒業認定手順は卒業判定会議、教授会を経て学長が認定する。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	国際こども教育学科	62 単位	(有)・無	55 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		<p>公表方法：学修指導、卒業判定、表彰等の活用について、G P A規程を公表</p> <p><a href="https://www.felicia.ac.jp/wp-content/uploads/2020/08/0e2775f3913007277faa725a791beafe-1.pdf">https://www.felicia.ac.jp/wp-content/uploads/2020/08/0e2775f3913007277faa725a791beafe-1.pdf</a></p>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：キャンパスマップ [https://www.felicia.ac.jp/about\\_us/campus\\_map.html](https://www.felicia.ac.jp/about_us/campus_map.html)  
 キャンパスガイド [https://www.felicia.ac.jp/campus\\_guide\\_2022.pdf](https://www.felicia.ac.jp/campus_guide_2022.pdf)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	国際こども教育学科	940,000 円	300,000 円	300,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生への経済的支援として奨学金制度がある。学生支援室では、学外奨学金である日本学生支援機構奨学金（給付・貸与）や保育士修学資金（貸与）の申請手続きを行っている。また、学内奨学金としてフェリシアこども短期大学奨学金（給付）、フェリシアこども短期大学鶴友会奨学金（給付）が設けられている。いずれも学業・人物ともに優秀な学生ではあるが、経済的理由により就学が困難である者を対象としている。</p> <p>障がい学生に対しては、障害者差別解消法の施行を受け、ダイバーシティ推進室を設置し、各部署が連携しながら支援をする体制が整えられている。支援を申し出た学生に対しては面談を行い、審議を経た上で合意書をかわしている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>就職支援は学生支援室の職員1名と2年担任が情報交換をしながら、個々の学生の支援にあっている。学生支援室では、求人票だけでなく、受験報告書等の就職資料が整理されており、自由に閲覧することができる。また、新卒応援ハローワーク（八王子）よりジョブサポーターを月4回派遣してもらい、一般企業就職希望者に対する就職相談を実施している。公立保育士受験希望者には受験対策勉強会を1年次から行い、合格者を毎年輩出している。</p> <p>職業教育のための授業としては、「キャンパスライフデザイン」「キャリアデザイン」がある。この授業では、仕事の選択だけでなく、ライフイベントなどを含んだ生涯にわたるライフスタイルのプロセスを明確に描くための指導を行っている。特に、2年生対象の「キャリアデザイン」では、川崎市こども未来局との連携事業として、校内就職説明会や面接シミュレーションを実施し、学生が就職先と出会う機会を提供している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>健康管理は学生支援室で行っている。健康診断を年に一度実施するほか、体調不良の場合には静養室を使用することができる。</p> <p>メンタルヘルスケアについては、学生相談室が中心となって対応している。専門のカウンセラー1名が週に1日来校し、事前予約をした上でカウンセリングを実施している。カウンセリング室は人目を気にせず来談できるように配慮されている。個人情報保護を基本とした上で、カウンセラーと学生相談失担当教員が定期的に学生の個々の問題につ</p>

いてカンファレンスを実施し、必要に応じて保護者や医療機関・福祉行政窓口と連携して問題解決を図っている。また、クラス担任は学生支援委員会の教職員と情報共有しながら、学生の悩みや困っていることの早期発見に努めている。

#### ⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学情報公開ホームページに公表

1. フェリシアこども短期大学 研究紀要  
<https://www.felicia.ac.jp/wp-content/uploads/2021/05/ealf40453dca686bbeb16f8fa135543d.pdf>
2. 自己点検・評価報告書の令和2年度 教員研究活動一覧 pp.66-67  
[https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2022\\_Self-inspection\\_report.pdf](https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2022_Self-inspection_report.pdf)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F213310104482
学校名	フェリシアこども短期大学
設置者名	学校法人 明泉学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		36人	39人	44人
内 訳	第Ⅰ区分	25人	24人	
	第Ⅱ区分	11人	12人	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				44人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		-	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		-	0人
計		-	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		-	0人
G P A等が下位4分の1		12人	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		-	-
計		17人	11人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。